

稲・大豆作情報 (NO. 6)

1. 水稻作況情報田の生育概況 (8月8日現在)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況				概況
			草 丈 c m	茎 数 本/㎡	主稈 出葉数	葉色 SPAD	
夢しずく 佐賀市 本庄町	6/17 17.7株/㎡ (平年6/16,18.1)	本 年	89.6	413	12.9	36.4	8月1半月は、高温(+2.8℃)、多 日照(148%)、少雨(23%)。 ◇平年と比べ、 草丈：「夢しずく」は平年並み、「 さがびより」「ヒヨクモチ」は低い。 茎数：「夢しずく」「ヒヨクモチ」は多 く、「さがびより」は少ない。 主稈出葉数：すべての品種でやや進 んでいる。 葉色：すべての品種で淡い。 ★「夢しずく」の幼耳稈長-3~2cm (8/17出穂予想)、「さがびより」 は幼穂1mm未滿。
		平 年	87.9	367	12.6	37.1	
		平年比	(102)	(112)	(0.3)	(-0.7)	
さがびより 小城市 芦刈町	6/20 18.6株/㎡ (平年6/19,17.2)	本 年	68.9	434	13.2	32.7	
		平 年	75.6	471	12.8	38.9	
		平年比	(91)	(92)	(0.4)	(-6.2)	
ヒヨクモチ 小城市 牛津町	6/28 19.6株/㎡ (平年6/27,18.8)	本 年	53.2	694	12.7	39.2	
		平 年	59.2	636	12.5	41.7	
		平年比	(90)	(109)	(0.2)	(-2.5)	

注1) 各品種 前作：麦

注2) 施肥及び病害虫防除は地区基準に準ずる

注2) 平年値は、過去10年間(H25~R4)の平均値(さがびよりについては、R1年を除くH24年~R4年の平均値)

◆農業試験研究センター米づくり情報 第6号 8月7日(抜粋)

移植日	項目 品種	年 次	草 丈 c m	茎 数 本/㎡	葉 齢 L	葉色 SPAD	概 況 (平年と比較して)
6月19日	夢しずく	本 年	84.9	425	13.2	40.3	[気象] 7月31日~8月6日まで ◆平均気温…平年より2.6℃高い ◆日照時間…長い(平年比131%) ◆降水量…少ない(平年比16%) [生育] ◆草丈 「夢しずく」「ヒヨクモチ」は平年並、「ヒノヒカリ」は低く、「さがびより」はやや低い。 ◆茎数 「夢しずく」はやや多く、「ヒノヒカリ」は平年並、「さがびより」は少なく、「ヒヨクモチ」は多い。 ◆葉齢 「夢しずく」「ヒヨクモチ」はやや進んでおり、「ヒノヒカリ」はやや遅れている。「さがびより」は平年並。 ◆葉色(SPAD値) 「夢しずく」はやや高く、「ヒノヒカリ」は高く、「さがびより」は平年並み、「ヒヨクモチ」はやや低い。
		平 年	84.0	404	12.6	38.9	
		平年比(差)	101	105	+0.6	+1.4	
	ヒノヒカリ	本 年	70.4	506	12.3	40.7	
平 年		76.0	508	12.6	37.1		
平年比(差)		93	100	-0.3	+3.6		
6月20日	さがびより	本 年	71.2	426	12.7	38.2	
		平 年	73.0	509	12.7	38.1	
		平年比(差)	98	84	±0	+0.1	
	ヒヨクモチ	本 年	66.9	824	13.6	37.0	
平 年		66.7	717	13.1	38.2		
平年比(差)		100	115	+0.5	-1.2		

注1) 耕起概要等は前号参照。

2. 水稲管理

台風接近時および通過後の対策を徹底する。

「ヒノヒカリ」は穂肥施用時期となっているので、診断基準に従い、時期を逸しないように施用する。

○台風対策

- ・ **台風接近時** ・ 風による稲体の揺れ動きを少なくするため**深水管理**とする。
特に、早植え水稲や普通期水稲の早生品種（夢しずく等）は、茎葉の繁茂度が高く、水分の蒸散量が著しい時期にあたるので、可能な限りの湛水を行う。
- ・ **台風通過直後** ・ 茎葉の損傷により根の老化が進むことがあるので、新しい水と交換し、こまめに間断灌水を行い、根の機能維持に努める。
- ・ 水田に海水流入による浸冠水や潮風害を受けた場合は、直ちに排水し真水と入れ替える。できれば掛け流しを行って除塩するか、少なくとも2～3回は水を入れ替え、生育回復に努める。

○台風通過後の水管理

- ・ 「夢しずく」は、穂孕み期～登熟初期となっており、最も要水量が多くなる時期であることから、強い水分ストレスを与えないよう間断灌水を励行し、湿润状態を保つ。
- ・ 「ヒノヒカリ」は幼穂形成期、「さがびより」は間もなく幼穂形成期を迎えることから、中干しを終え、間断灌水に移行する。
- ・ 「ヒヨクモチ」は、最高分げつ期を迎えており、中干し後の間断灌水に移行し、幼穂形成期までに軽めの中干し（小さなヒビが入る程度）を行う。

○穂肥 ～ 散布時は入水し、湛水状態で施用 ～

「ヒノヒカリ」・ 現在、穂肥施用時期を迎えているため、診断に基づき穂肥を施用する。

幼穂形成始期の草丈	葉色		施用時期		穂肥施用量	
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分 kg/10a	BB602 kg/10a
80cm以下	3.0以下	34以下	20～24日	1～2mm	3.0	18.8
	3.0～3.3	35～38	18～20日	3～5mm	3.0	18.8
	3.5～3.8	39～40	16～18日	5～15mm	2.0	12.5
	3.8以上	41以上	—	15～30mm	1.0以下	6.3以下
80cm以上	3.0～3.3	35～38	18～20日	3～5mm	2.0	12.5
	3.5～3.8	39～40	16～18日	5～15mm	1.5	9.4
	3.8以上	41以上	—	15～30mm	1.0以下	6.3以下

「さがびより」・ 現在、幼穂長0.5mm程度。8月中旬に穂肥施用になると思われる。

- ・ 施用時期は、幼穂長5～10mmが基準。5mmに達したのを確認し施用する。

★新基準 H29～（平坦部）★ さがびより診断基準

幼穂形成始期（幼穂長1mm）の草丈	葉色		施用時期		穂肥施用量	
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分 (kg/10a)	BB602 (kg/10a)
80cm以下	3.5以下	38以下	18～20日	5mm	2.5	15.6
	3.7	38～40	18日	10mm	2.0	12.5
	3.8	40～41	16日	15mm	1.0	6.3
	3.8以上	42以上	施用しない			
80cm以上	3.8以下	39以下	16～18日	10～15mm	1.5	9.4
	3.8以上	40以上	施用しない			

旧診断基準 (※平坦上部～山麓地域参考)

幼穂形成始期 (幼穂長1mm) の草丈	葉 色		施 用 時 期		穂肥施用量	
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分 (kg/10a)	BB602 (kg/10a)
75cm以下	2.5以下	33以下	18～20日	5mm	2.5	15.6
	3.0	33～37	18日	10mm	2.0	12.5
	3.5	37～38	16日	15mm	1.0	6.3
	3.8以上	39以上	施 用 し な い			
75～80cm	3.0以下	36以下	16～18日	10～15mm	1.5	9.4
	3.0以上	37以上	施 用 し な い			
80cm以上	施 用 し な い					

○病害虫情報 (発生および防除)

・「病害虫発生予察情報予報第4号(7/27発表)」で、8月は以下の予報が出ているため、適切な管理を行う。

【トビイロウンカ】・・・やや多

・8/8調査した圃場では、トビイロウンカは確認していないが、その他ウンカ類を少ないが確認している。今後、急増する場合もあるため、発生状況を注視し、適期適正防除に努める。

・防除効果が高い時期は、幼虫ふ化揃い期(各幼虫期の前半(図中★))である。

【有効薬剤：オーケストラ・エクシード・エミリア など】

・防除する場合は、湛水するとともに薬剤が株元まで十分にかかるように丁寧に散布する。

・発生予測図は、気象をもとに随時更新されるため、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。



トビイロウンカ各世代の発生予測
(第2版、2023年7月25日作成)

【コブノメイガ】・・・やや多

・8/8の調査で、成虫の飛来が確認された圃場がある。

・止葉を含む上位3葉に被害がでると減収につながるため、

圃場ごとの発生状況を確認したうえで、幼虫ふ化揃い期(発蛾最盛期の7日後)に防除を実施する。

【斑点米カメムシ】・・・やや多

・耕種的な防除として、畦畔除草を出穂10日前までに行う。

出穂後の除草は、水田内に斑点米カメムシ類を誘い込んで被害を助長するため、時期を逸した場合には収穫前まで除草しない。

・山麓部や河川敷付近など、例年発生の多い圃場では田廻りを励行し、防除を徹底する。

・防除はカメムシが穂に上ってくる夕方に行うと効果が高い。

草刈りの時期(目安)	斑点米カメムシ類の防除時期
ヒノヒカリ 8/15頃まで	◎多発生:「穂揃い期」及び「乳熟期」の2回防除
さがびより 8/20頃まで	◎少発生:「乳熟期(出穂の約15日後)」1回防除

【紋枯病】・・・やや多

・8/8の調査の「夢しずく」圃場で株元に発生が確認されている。また、台風通過後は、発病がより進む可能性が高いため、発生を認めた圃場では病斑が上位の葉鞘に進展する時期(液剤、粉剤の場合は出穂20～10日前を目安とする)に防除を徹底する。

3. 大豆管理 ～ 大豆は水分ストレスに弱い作物。乾湿差を最小限にする圃場づくりを ～

梅雨明け後、降水がほとんどなかった地域では、大豆の生育が小さく、日中は葉が裏返っている圃場も見受けられる、暗渠排水の栓を閉める、可能などところではうね間灌水を行うなどして土壌水分の確保を図る。

一方、大雨対策として排水対策（明渠やうね間、排水溝をつなぐ）も講じておく。

○生育状況

- 7月15日播種 本葉5～6葉目
- 7月20日播種 本葉4～5葉目
- 7月下旬以降 子葉～初生葉～本葉1～2枚程度

※同じ播種時期でも、土壌水分の有無や降雨の有無で生育は異なる。

○干ばつ対策

◆大豆生育期間中に必要な水量



暗渠排水の栓を閉めるなどして土壌水分を確保



○培土

・出芽した大豆は、以下の目安を参考に、雑草防除や生育確保のため、培土を実施する。

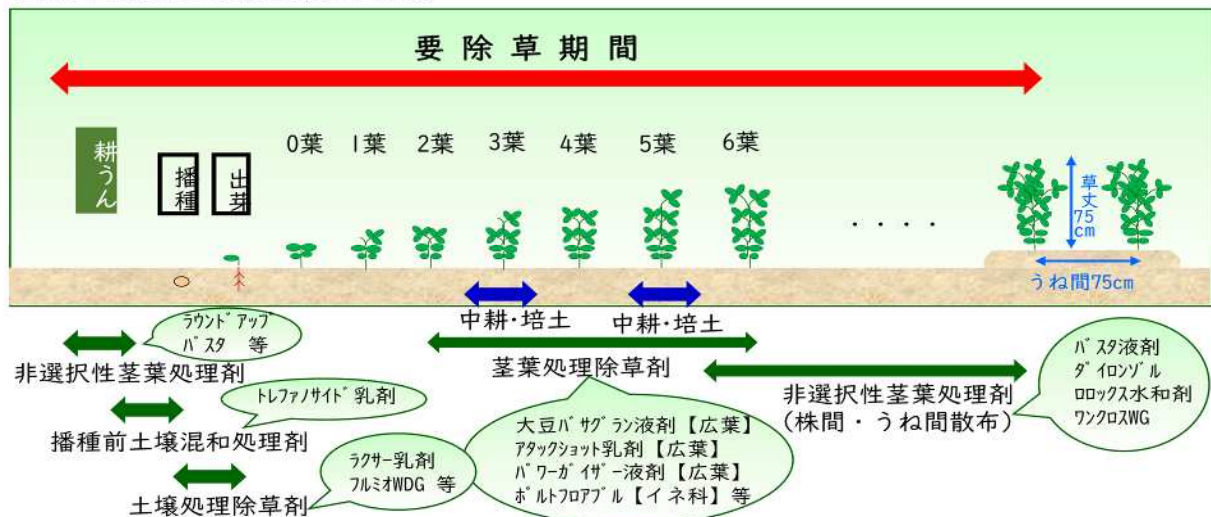
〈実施時期の目安〉

- 1回目：本葉2～3枚の頃、子葉が隠れる程度におこなう。
- 2回目：本葉4～5枚時に、初生葉（子葉の上の葉）まで隠れるようにおこなう。

※培土は、大豆栽培で重要な作業の一つであるが、気温が高い日中の作業は、土壌水分の蒸散を助長するため、作業は夕方以降が望ましい。

○雑草対策・・・早期対応が肝心

■除草技術と実施時期の目安



令和5年産水稻生育期間気象グラフ（アメダス：佐賀）

佐城農業振興センター

